

# ARCHITREND リフォームエディション Ver.8 の新機能

## 共通

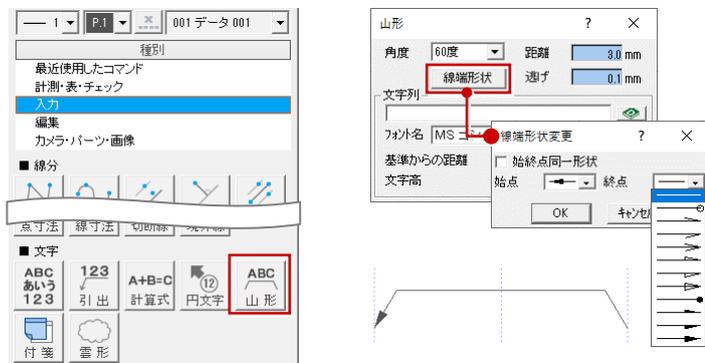
### 推奨ブラウザの変更

ヘルプ、サポートサイト、リモートサポートサイト呼び出しなど、Internet Explorer 11（以下 IE11）を使用していた箇所をChromium版Edgeに変更しました。また、ブラウザ利用部分は既定のブラウザで表示可能になりました。IE11のサポート終了後も安心安全にご利用いただけます。

## 汎用

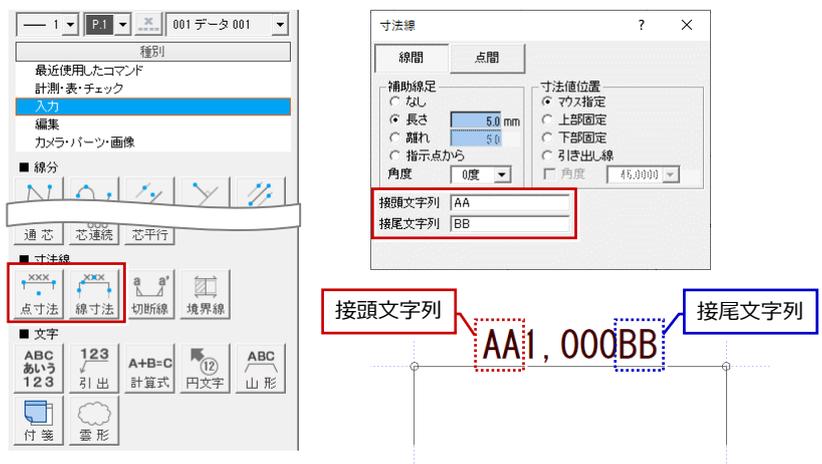
### 山形の拡張

山形の線端に矢印タイプを設定できるように拡張しました。自由度の高い山形の表現が可能になります。

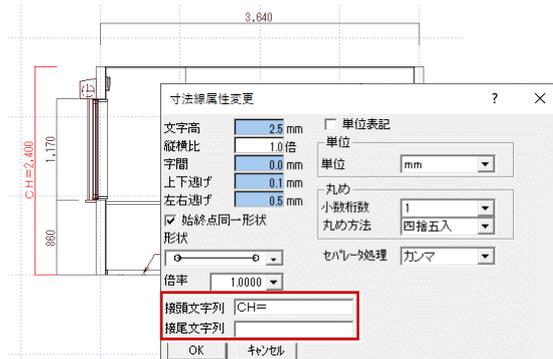


### 寸法線の拡張

寸法線に接頭文字列、接尾文字列を設定できるようにしました。従来は、寸法値の前後に文字列を追加した後にトラック編集や属性変更などを行うと、寸法値のみの表記に戻ってしまいましたが、編集後も前後の文字列を維持しながら正しい寸法値が描画されるようになり、編集の手間が軽減します。



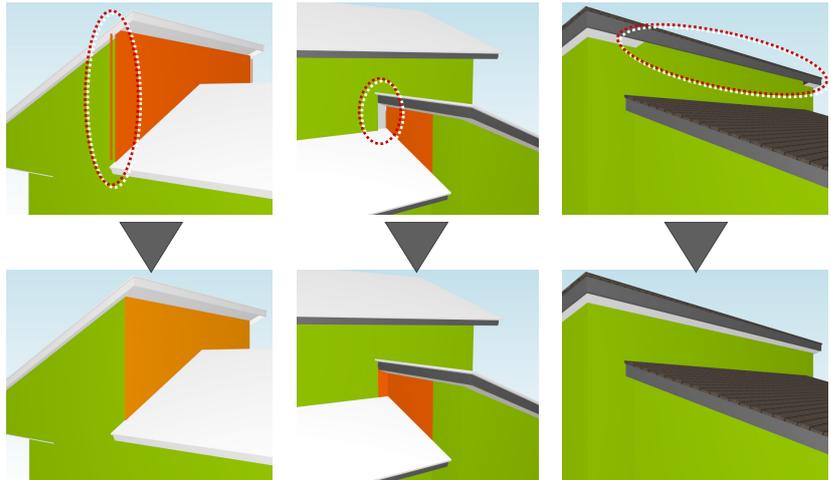
※ 展開図で自動作成される寸法線の文字列も、接頭文字列として登録されます。



## 屋根・天井伏図

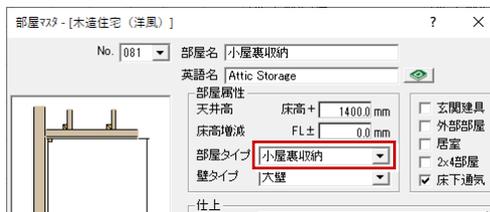
### 妻壁・軒天自動の改善

段違い屋根部分の妻壁配置を強化しました。従来、妻壁や軒天が自動配置されなかったり、外壁仕上との取り合いがうまくいかなかった部分が改善され、編集の手間が軽減されます。

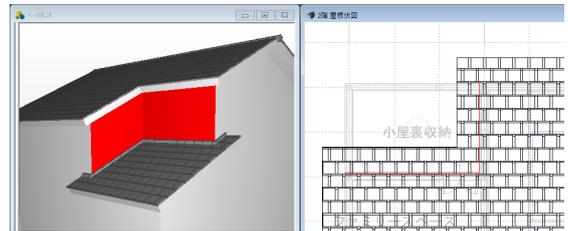


### 小屋裏収納対応

部屋タイプが「小屋裏収納」の場合は、小屋裏や下階屋根下での入力を想定した処理となるように動作を見直しました。入力の手間が軽減されます。



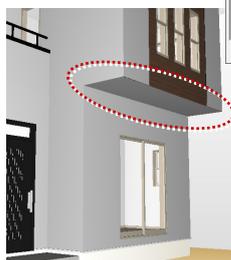
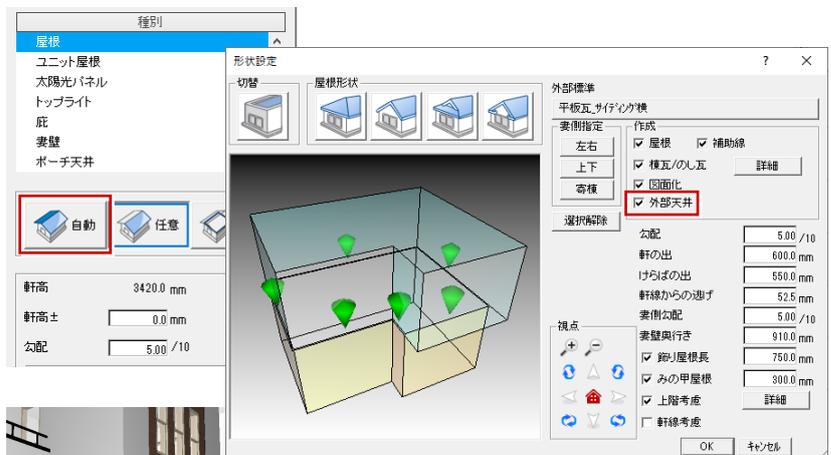
- ・ 小屋裏収納を除いた領域で、軒線・上階区画が作成されます。
- ・ 下屋に納まる小屋裏収納を上階で入力している場合、小屋裏収納を除いた領域を考慮して下屋との隙間にも妻壁が配置されます。
- ・ 小屋裏収納の領域上に同階屋根がある場合、軒天が配置されます。
- ・ 小屋裏収納の内部天井仕上は下屋も参照します。
- ・ 小屋裏収納部分の外壁は下屋を突き抜けないよう立体作成を強化しました。



### ポーチ天井自動配置

上階がオーバーハングしている部分や、部屋の外側で壁に囲まれていて屋根が掛かっている部分に、ポーチ天井を自動配置できるようにしました。

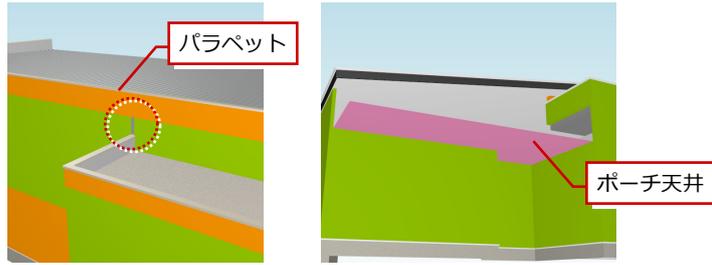
屋根自動配置時に「外部天井」がONの場合や、「ツール」メニューの「外部天井仕上自動」を実行した場合に作成されます。手動入力を忘れがちだったポーチ天井を入力する手間が省け、手戻りが軽減されます。



# パース

## 外壁仕上の立体改善

パラペットと外壁仕上が取り合う部分や、外壁仕上とポーチ天井が取り合う部分の立体作成を強化しました。  
汎用シンボルなどで穴埋めする必要がなくなり、立体表示の精度がアップしました。

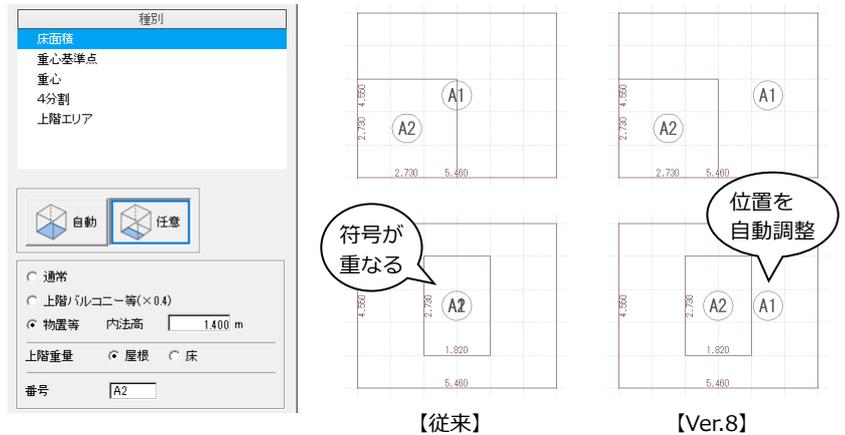


# 耐震診断

## 符号の重なりを解消

床面積区画の入力で、符号が重なる場合は符号の位置を自動調整するようにしました。  
手動で移動する手間が解消できます。

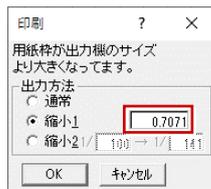
- ※ 重ねられた方の符号が移動します。
- ※ 区画の削除や移動などを行ったときも、符号位置を再計算します。



# 図面印刷

## 縮小印刷時の縮小率設定

従来、縮小印刷時の縮小率は小数 2 桁四捨五入でまるめた値が初期値となっていたのですが、4 桁四捨五入で計算するようにしました。  
出力用紙変更による縮尺誤差を軽減します。



## 図枠項目の追加

図枠の項目を拡充しました。  
物件情報や面積・高さ情報などから連動する項目が増え、作図手間が軽減されます。  
※ 追加された項目の連動元については、ヘルプを参照してください。

